



REAL LOGISTICS

Being Group

2023年12月期第2四半期 決算説明資料

株式会社ビーイングホールディングス
(東証 スタンダード市場 9145)

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新・改訂を行う義務を負うものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

※端数の処理について、単位未満を切捨て、パーセントは小数点第一位未満を切捨てとしております。

2023年12月期第2四半期 連結業績実績

上半期業績（累計）として、
過去最高の営業収益及び各利益を達成

営業収益	123.0億円 前年同期比 +14.2%	営業利益	7.5億円 前年同期比 +73.4%
経常利益	7.5億円 前年同期比 +75.6%	親会社株主に 帰属する 四半期 純利益	4.3億円 前年同期比 +47.8%

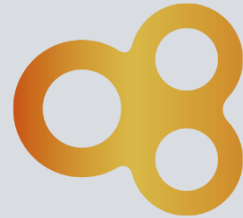
I ... 4つの特長、3つの成長戦略

II ... Topic

III... 2023年12月期第2四半期連結業績実績

IV... 2023年12月期連結業績予想

V ... Appendix



REAL LOGISTICS
Being Group

I

ビーインググループ

- ・ 4つの特長
- ・ 3つの成長戦略



運ばない・触れない 物流システム

生産地



SCMセンター

消費地近くに立地し安定供給

メーカー、中間流通業者、
小売業者の
倉庫を1つに集約



消費地（店舗）



従来の物流

運ぶ
コスト



メーカー
物流センター



運ぶ
コスト



中間流通業
物流センター（卸売）



従来の物流

- ・センター間の輸送が必要
- ・会社別にセンターを所有
- ・各センターで入出荷作業が発生

運ぶ
コスト



小売業
物流センター



運ぶ
コスト

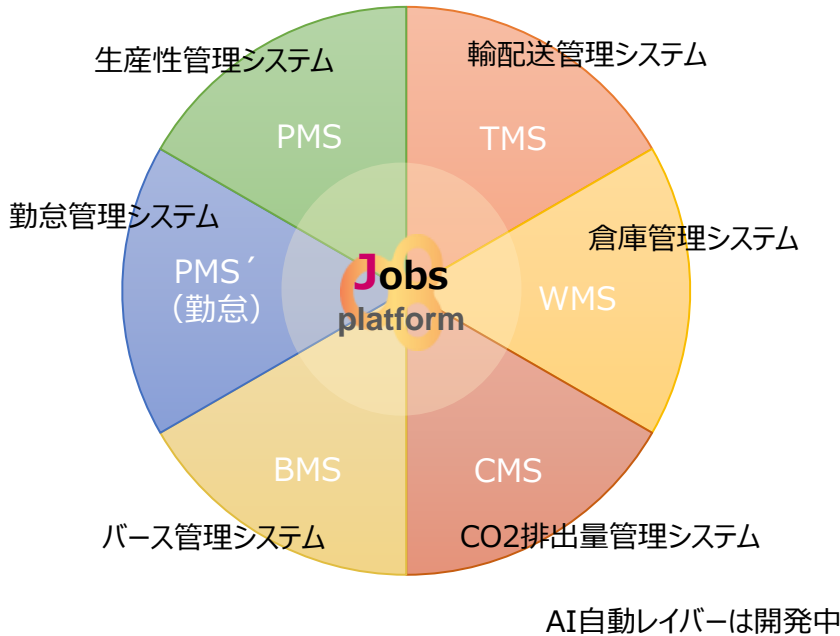


- ・ サプライチェーン全体の合理化
- ・ 輸送頻度の低減



- ・ サステナブルな社会への貢献
- ・ 物流2024年問題への先行対応

Jobs (6つのシステム)



Jobsは当社のシステムだけでなく、顧客システムとの連携が可能となる前提で開発しております。

リアルタイムのモノの流れを 見える化

物流センターの
在庫量
が見える

商品の
入庫・出庫
時刻
が見える

配送車両の
位置
が見える

顧客側もインターネット経由で 同時に同一情報を確認できる 見せる化

当社
グループ



顧客

Jobsによる物流の見える化・見せる化は課題や問題を明確化し、サプライチェーン全体の最適化・合理化に寄与

成長
戦略

関東から
全国への展開
を見据えた
物流基盤の構築

1

既存顧客内での
当社
シェアアップ
に注力

成長
戦略

2

量の拡大と質の変革
長期成長イメージ

成長
戦略

3

成長戦略1
・・・次ページ以降ご参照
成長戦略2、3
・・・Appendixご参照

成長戦略 1 全国への展開

北陸に強い基盤を築き、東北から関西まで

■ **19** 都府県 **56** 物流拠点に拡大

■ 従業員数 **2,094**名

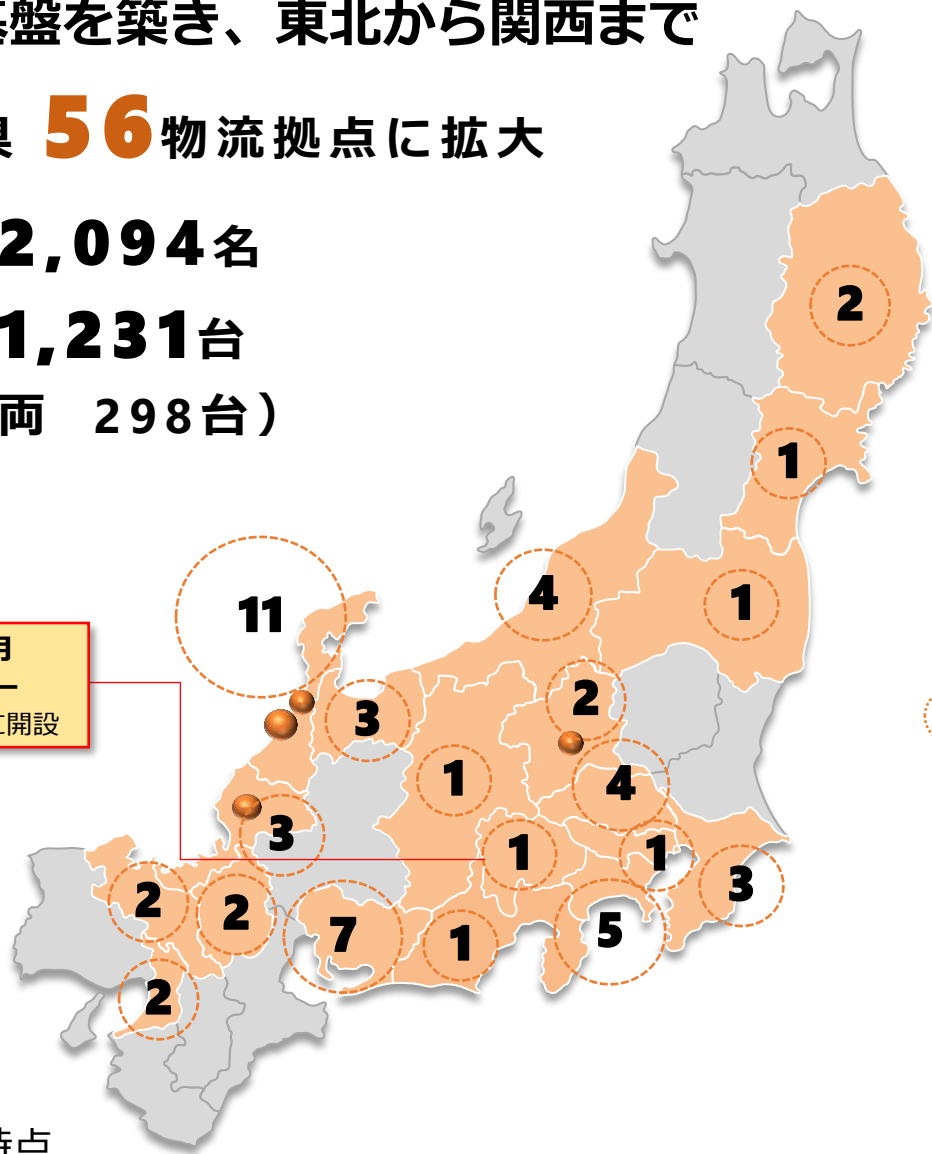
■ 輸送力 **1,231**台
(内、自社車両 298台)

- ・ 6月に成田TC、成田低温センターを閉鎖
- ・ 8月には静岡TCを静岡低温センターに統合



配送業務の合理化

2023年4月
山梨センター
山梨県中央市に開設



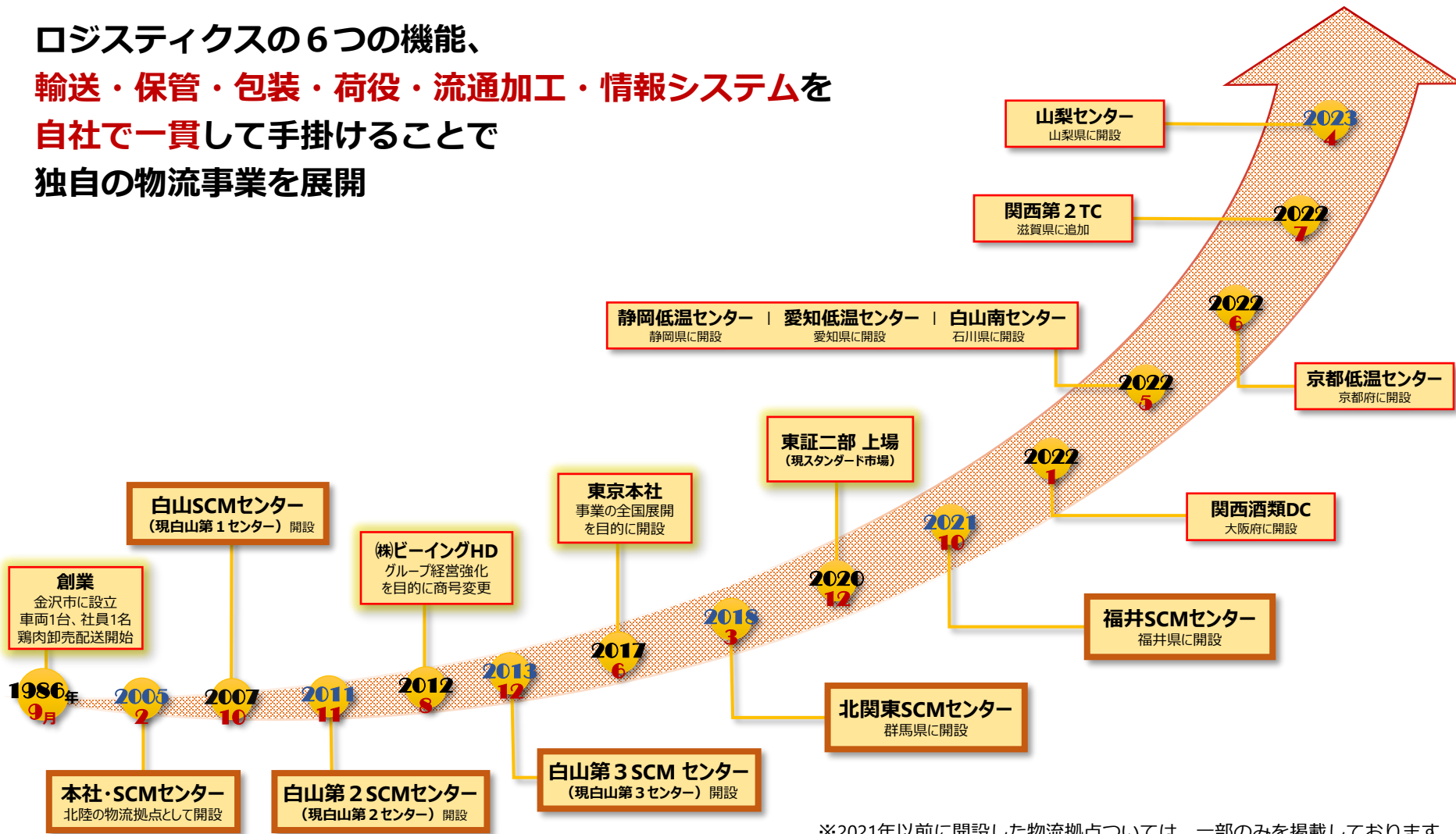
- ...の中の数字は各都府県の拠点数を示す
- **自社所有 | 6センター**

金沢SCMセンター	(金沢市)
白山第1センター	(白山市)
白山第2センター	(白山市)
白山第3センター	(白山市)
福井SCMセンター	(永平寺町)
北関東SCMセンター	(前橋市)

◆ 2023年8月10日時点
※ 従業員数および輸送力は6月末時点の数値となっております。

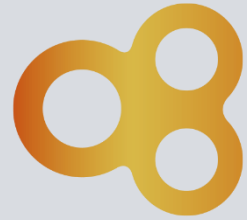
成長戦略 1 成長の軌跡

ロジスティクスの6つの機能、
輸送・保管・包装・荷役・流通加工・情報システムを
自社で一貫して手掛けることで
独自の物流事業を展開



※2021年以前に開設した物流拠点については、一部のみを掲載しております。
 また、自社所有の物流拠点は太枠で記載しております。





REAL LOGISTICS
Being Group

II

Topic

■ 2023年6月20日、業務合理化に伴い「成田TC・成田低温センター」を閉鎖

- ・ 配送業務の合理化に伴い、成田TC・成田低温センターの2拠点を閉鎖



■ 2023年6月30日、健康経営アライアンスに参画

- ・ 健康経営®アライアンス

「社員の健康をつうじた日本企業の活性化と健保の持続可能性の実現」というビジョンに共感する148の企業・団体（6月30日時点）が活動する組織

- ・ 主な取り組み

- ① 健康経営の評価指標の設計
- ② データ分析に基づく健康経営アセスメントの作成
- ③ 各種ソリューションの情報プラットフォームの構築
- ④ 勉強会／セミナーの開催



「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

■ 2023年8月1日、西東京DDCでFC小型トラックを導入



- ・ 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の研究開発助成事業「グリーンイノベーション基金事業／スマートモビリティ社会の構築」のもと、株式会社ローソンが燃料電池トラックの社会実装を推進する一環として、三菱食品株式会社、株式会社東京アクティーが運行する車両として導入

【概要】

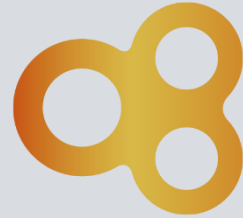
導入事業所	東京都八王子市・西東京 DDC	
配送開始予定	2023年8月3日	
配送エリア	東京都内（八王子～世田谷）	
車両仕様	寸法（mm）	全長 6,895/全幅 2,225/全高 3,150
	最大積載量	2,500kg
	航続距離	約 260km
	最高速度	80km/h
	水素貯蔵量	約 10kg



■ 2023年8月10日、業務合理化に伴い「静岡TC」を閉鎖



- ・ 配送業務の合理化に伴い、静岡TCを閉鎖し、既存の静岡低温センターに統合



REAL LOGISTICS
Being Group

Ⅲ

2023年12月期第2四半期

(2023年4月～6月)

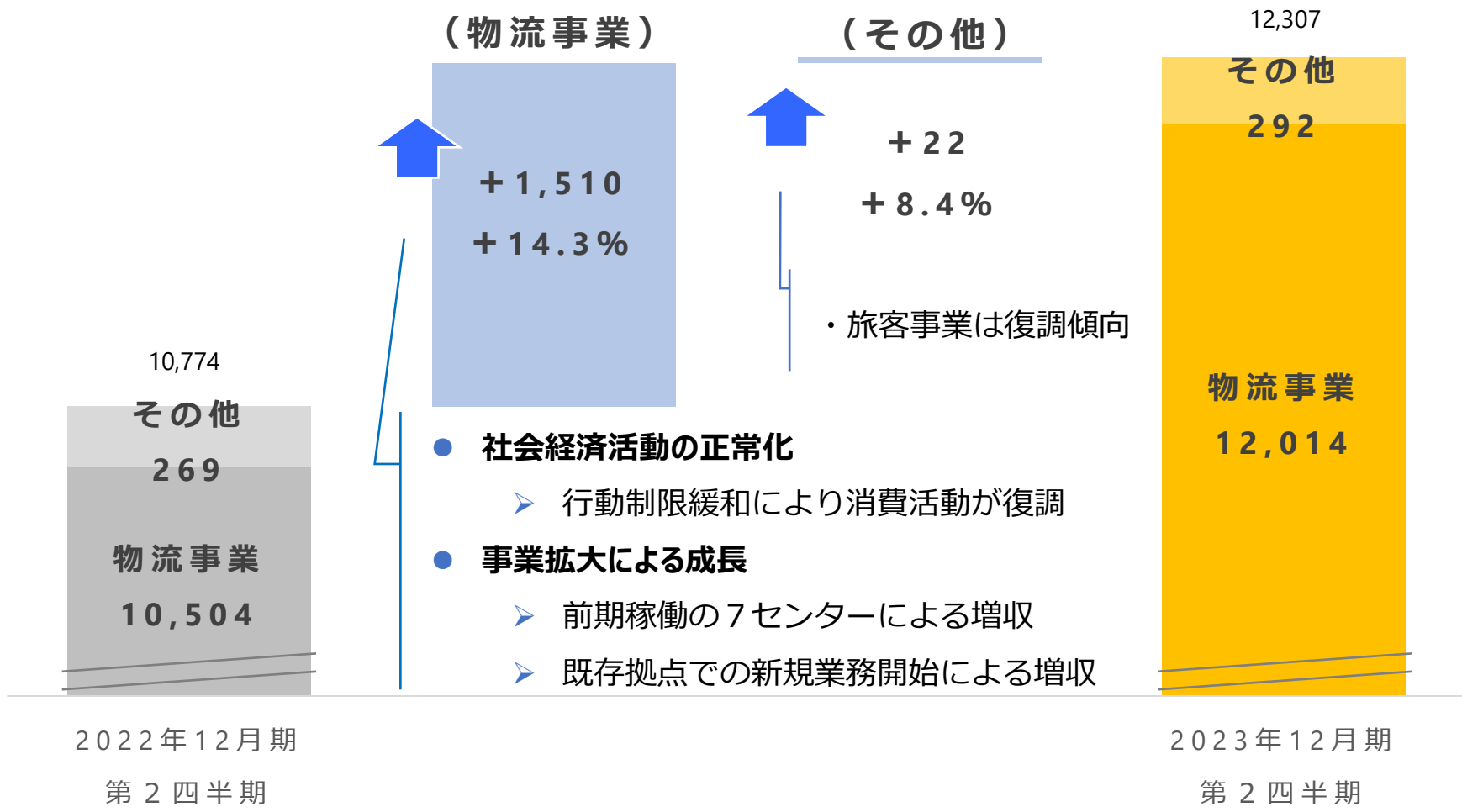
連結業績実績

2023年12月期第2四半期 損益状況（前年同期比）

[百万円]	2022年12月期 第2四半期 実績		2023年12月期 第2四半期 実績		前年同期比	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率
営業収益	10,774		12,307		+1,533	+14.2%
営業原価	9,761	90.6%	10,938	88.8%	+1,176	+12.0%
営業総利益	1,012	9.3%	1,368	11.1%	+356	+35.2%
販管費	578	5.3%	616	5.0%	+37	+6.5%
営業利益	433	4.0%	752	6.1%	+318	+73.4%
営業外収益	42	0.3%	21	0.1%	△20	△48.3%
営業外費用	43	0.4%	15	0.1%	△28	△64.6%
経常利益	432	4.0%	758	6.1%	+326	+75.6%
特別利益	7	0.0%	2	0.0%	△5	△70.8%
特別損失	0	0.0%	0	0.0%	+0	+8.0%
法人税等	133	1.2%	274	2.2%	+141	+105.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	292	2.7%	433	3.5%	+140	+47.8%

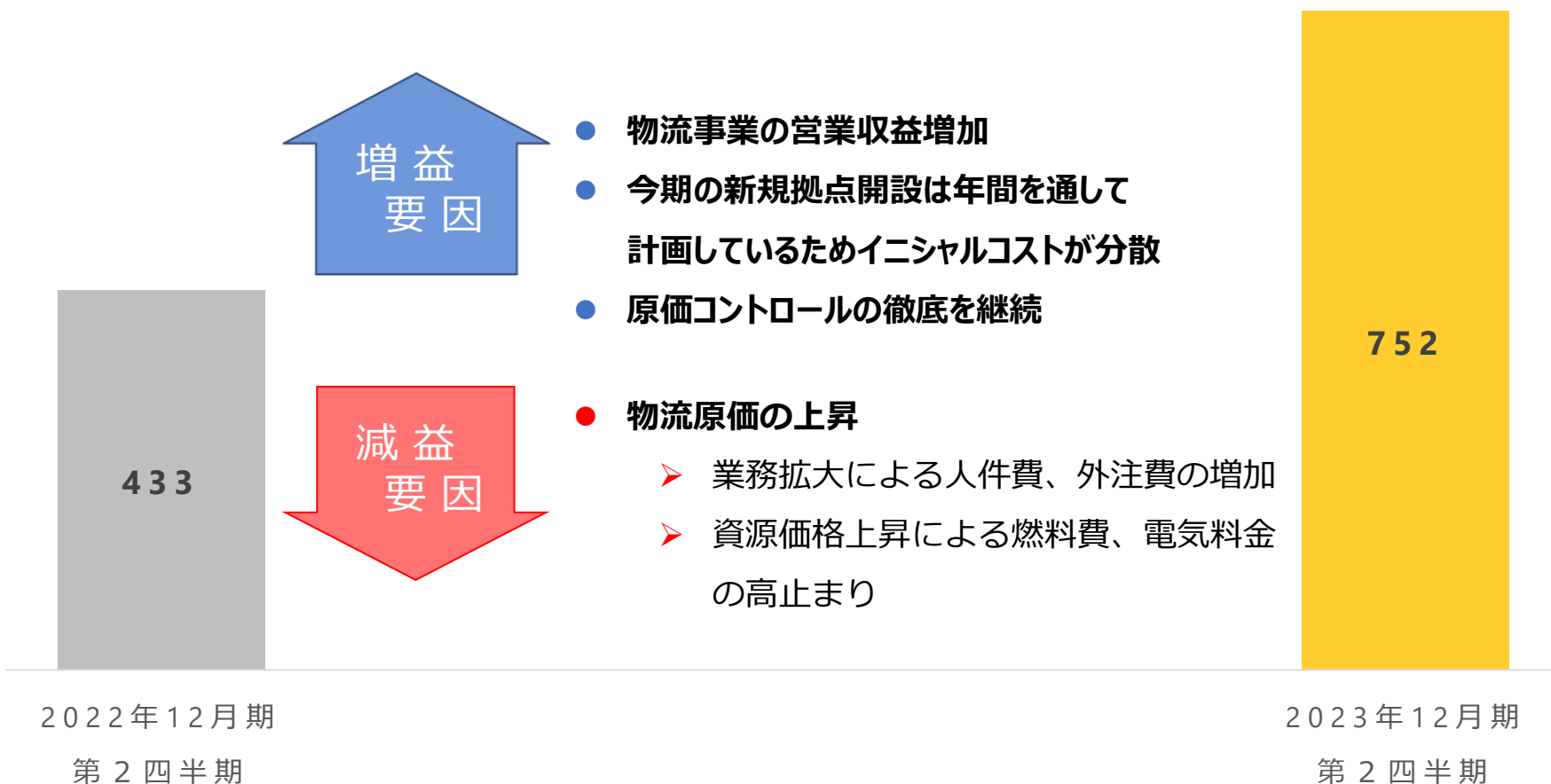
2023年12月期第2四半期 損益状況 | 営業収益増減要因分析

[百万円]	2022年12月期 第2四半期 実績 金額	2023年12月期 第2四半期 実績 金額	前年同期比	
			増減額	増減率
営業収益	10,774	12,307	+1,533	+14.2%



2023年12月期第2四半期 損益状況 | 営業利益増減要因分析

[百万円]	2022年12月期 第2四半期 実績		2023年12月期 第2四半期 実績		前年同期比	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率
営業利益	433	4.0%	752	6.1%	+318	+73.4%



営業収益、営業利益及び営業利益率の四半期別推移

営業収益：順調に拡大

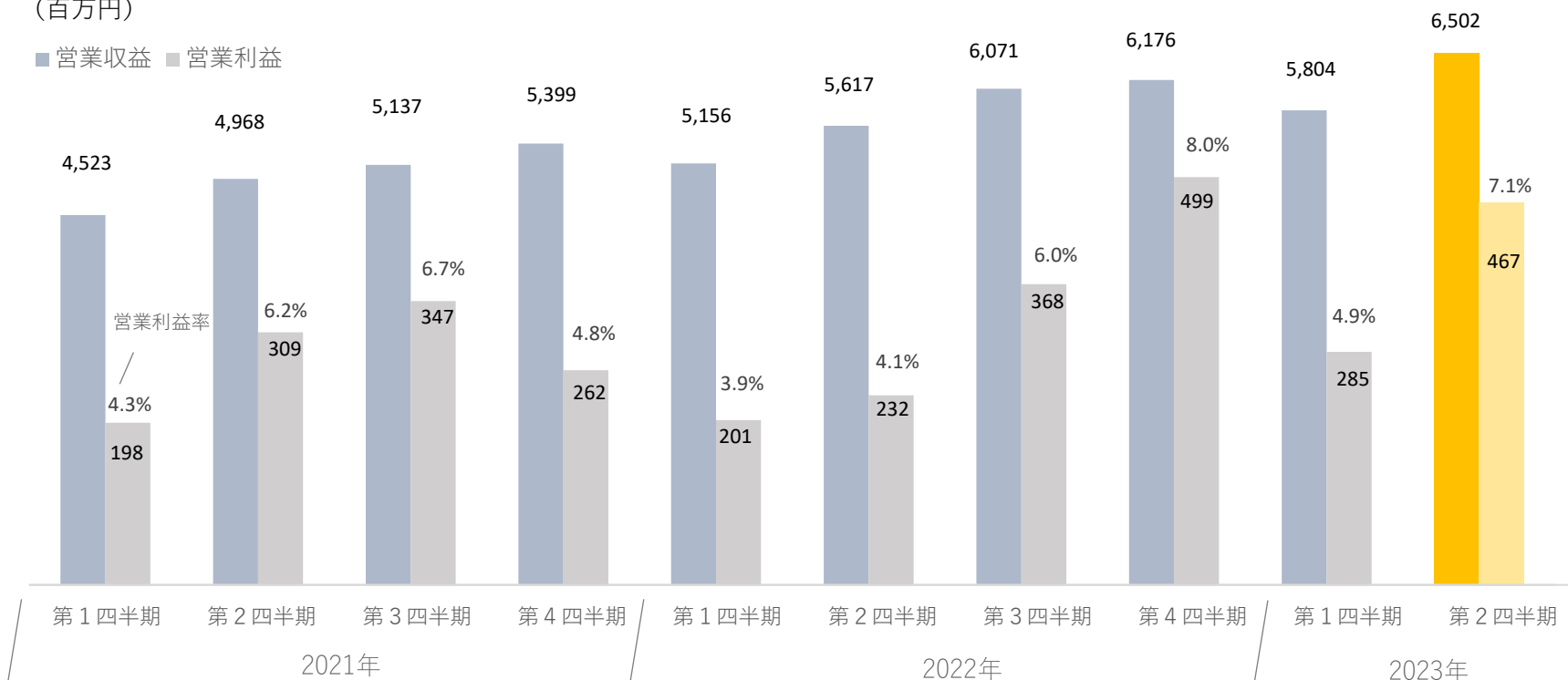
- ・消費活動の復調による増収
- ・事業拡大による増収

営業利益：計画を上回る推移

- ・今期の新規拠点開設は年間を通して計画しているためイニシャルコストが分散
- ・構内、配送業務の合理化、原価コントロールの徹底

(百万円)

■ 営業収益 ■ 営業利益



2021年4Q～2022年2Q

新規拠点開設が集中したことで、
開設準備に伴う一時コストが増加

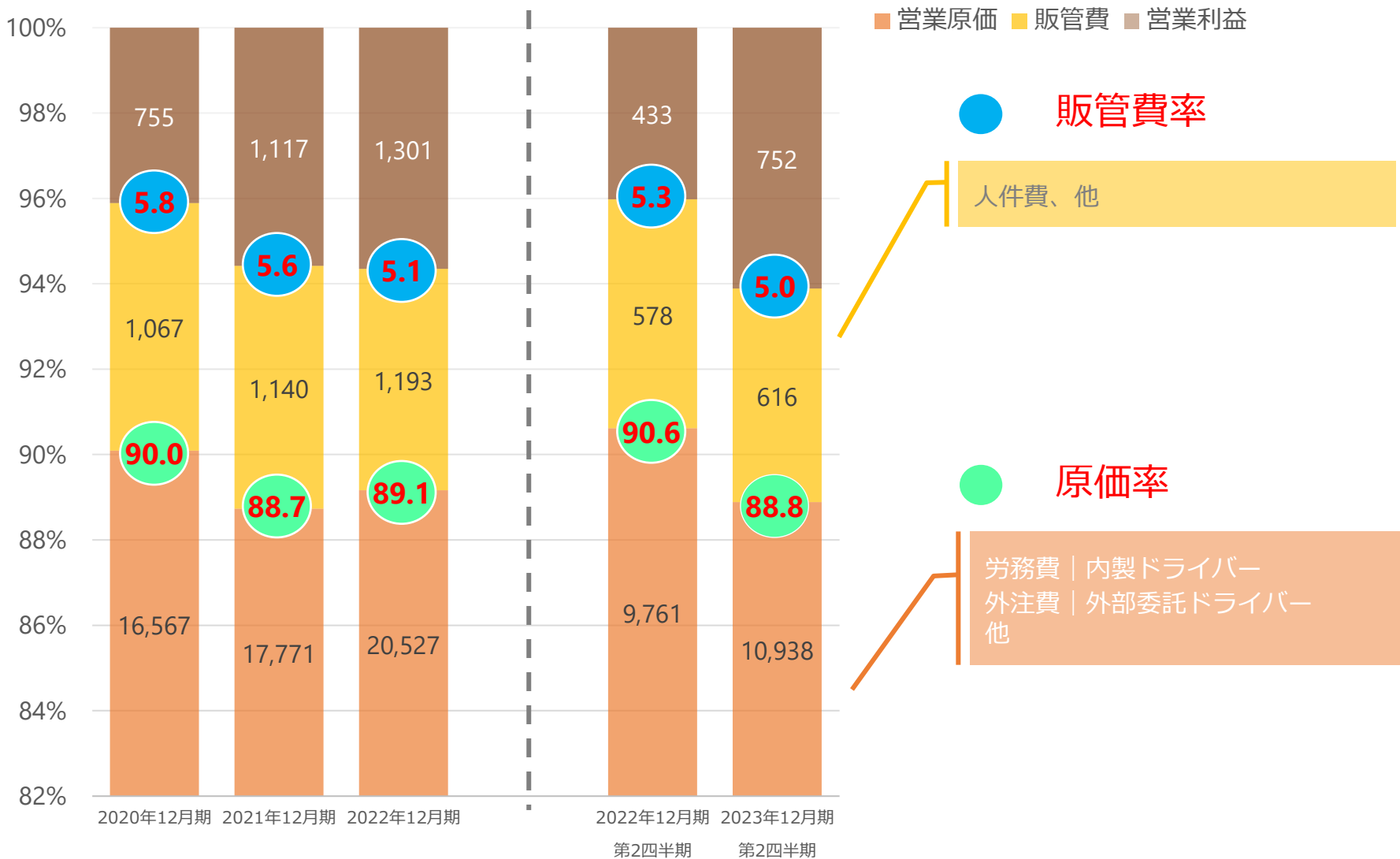
拠点開設集中

安定稼働・利益化

2023年12月期第2四半期 損益状況 | 収益構造

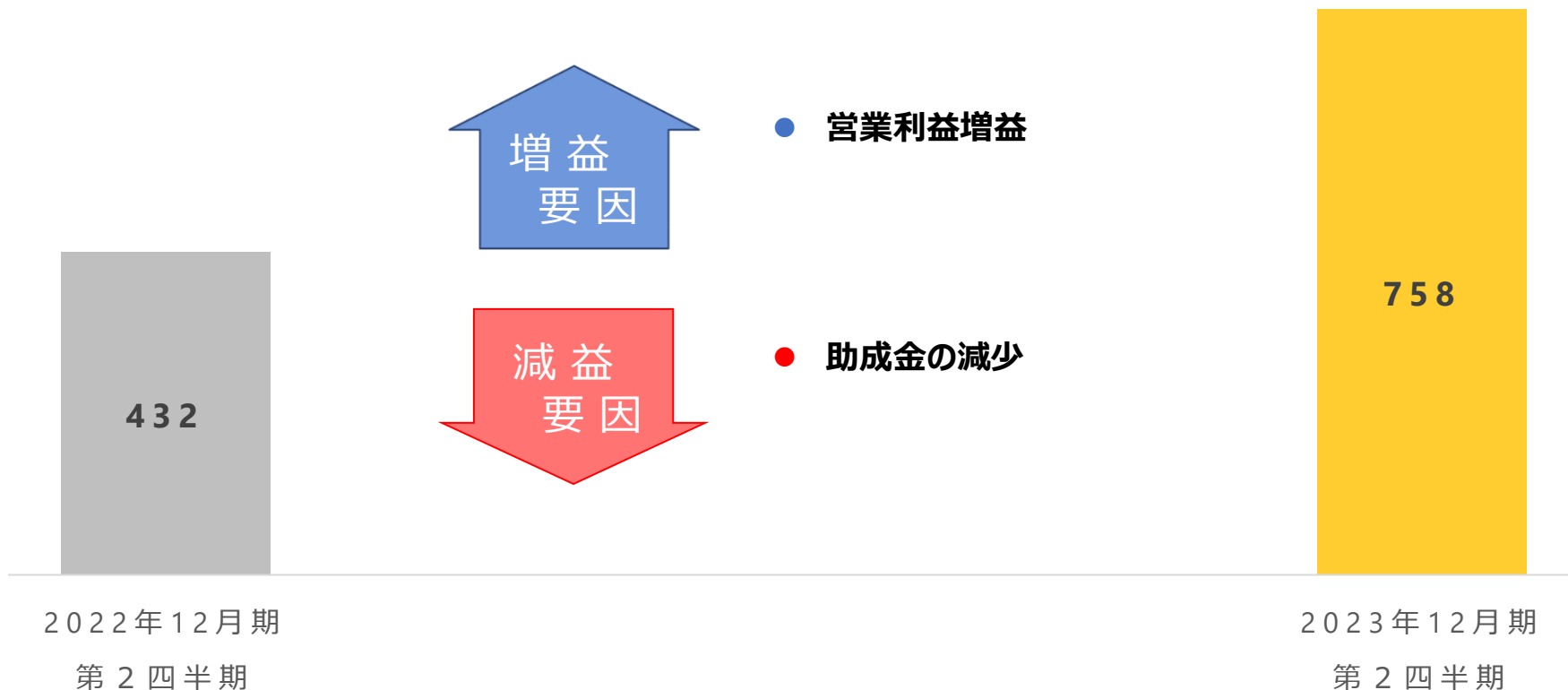
収益構造の推移

[百万円]



2023年12月期第2四半期 損益状況 | 経常利益増減要因分析

[百万円]	2022年12月期 第2四半期 実績		2023年12月期 第2四半期 実績		前年同期比	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率
経常利益	432	4.0%	758	6.1%	+326	+75.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	292	2.7%	433	3.5%	+140	+47.8%



2023年12月期第2四半期 財務状況（前期末比）

[百万円]	2022年12月期末		2023年12月期 第2四半期末		前期末比		主な増減要因
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
流動資産	6,711	46.0%	5,959	41.5%	△751	△11.2%	・ 現金及び預金 △710
固定資産	7,851	53.9%	8,399	58.4%	+547	+6.9%	・ 土地 +469 ・ リース資産 +99 ・ 建物及び構築物 △84
資産合計	14,562	100.0%	14,358	100.0%	△203	△1.4%	
流動負債	5,861	40.2%	5,641	39.2%	△220	△3.7%	・ 短期借入金 +800 ・ 営業未払金 △427 ・ 1年内返済予定の長期借入金 △170
固定負債	3,595	24.6%	3,297	22.9%	△297	△8.2%	・ リース債務 +81 ・ 長期借入金 △380
負債合計	9,456	64.9%	8,939	62.2%	△517	△5.4%	
純資産合計	5,105	35.0%	5,419	37.7%	+313	+6.1%	・ 利益剰余金 +280
負債・純資産合計	14,562	100.0%	14,358	100.0%	△203	△1.4%	
自己資本比率	33.7%		36.1%		+2.4pt.		



REAL LOGISTICS
Being Group

IV

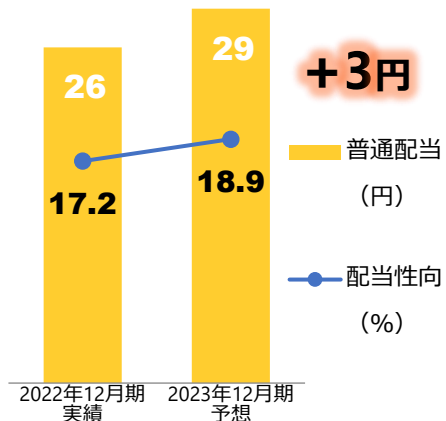
2023年12月期

連結業績予想

2023年12月期連結業績・配当予想

■ 7月14日に上半期の業績予想を修正。

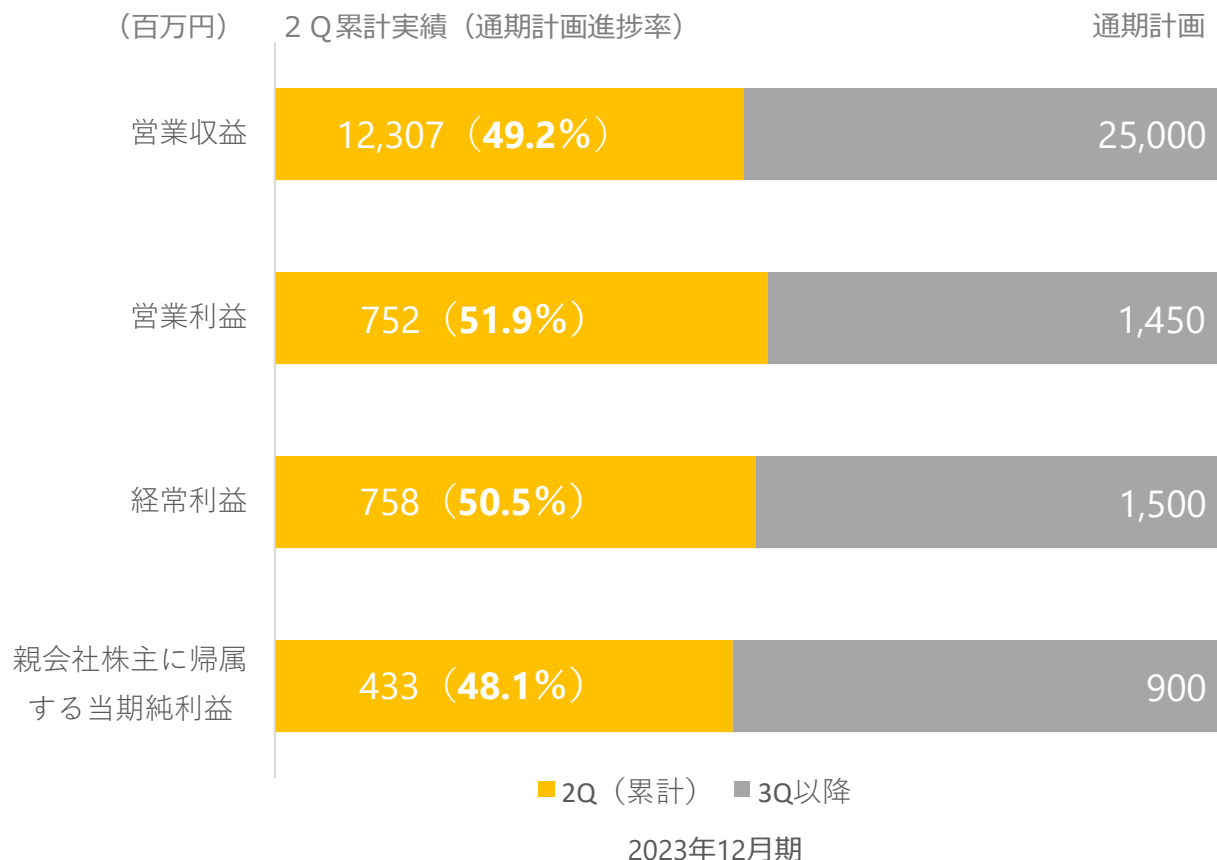
[百万円]	2022年12月期 実績		2023年12月期 予想		前期比		2023年12月期 通期予想比 (第2四半期)		(参考) 2022年12月期 通期実績比 (第2四半期)	
	金額	営業収益比	金額	営業収益比	増減額	増減率	進捗率	実績額	進捗率	実績額
営業収益	23,022		25,000		+1,977	+8.5%	49.2%	12,307	46.7%	10,774
営業利益	1,301	5.6%	1,450	5.8%	+148	+11.4%	51.9%	752	33.3%	433
経常利益	1,376	5.9%	1,500	6.0%	+123	+9.0%	50.5%	758	31.4%	432
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	873	3.7%	900	3.6%	+26	+3.0%	48.1%	433	33.5%	292
1株当たり 当期純利益 [円]	150. ⁴⁰		153.¹²							



配当基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 株主還元を経営上の重要な課題と認識 業績や事業拡大に向けた資金需要に対応した内部留保の確保を総合的に勘案 <p>配当性向やDOEを考慮しながら、長期的に安定した配当を継続</p>
内部留保資金	<p>借入金返済等の財務体質の強化・戦略的な成長投資</p> <p>企業価値向上に努める</p>

連結業績予想に対する進捗率

経済情勢を踏まえながら、
下半期においても計画達成、増収増益を目指す。

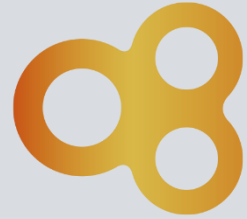


各種物流原価上昇の見通し

- ・ 燃料費、水道光熱費等の増加
- ・ 賃金上昇に伴う人件費、外注費等の増加

消費動向の変化に注視し、
原価コントロールの継続
による計画達成を目指す。

通期業績予想に修正が必要と判断した場合には、速やかに公表いたします。



REAL LOGISTICS
Being Group

V

Appendix

会社概要 i

社名	株式会社ビーイングホールディングス 【英文名】 BEING HOLDINGS CO.,LTD.
本社	金沢本社 石川県金沢市専光寺町レ3-18 TEL : 076-268-1110 / FAX : 076-268-6631 東京本社 東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング7階 TEL : 03-6259-1830 / FAX : 03-6259-1831
代表者	代表取締役社長 喜多 甚一 (キタ シゲカズ)
設立	1986年9月17日
資本金	677,038千円
従業員数	連結923名 (1,222名) (2023年6月末現在) 従業員数は就業人員 (当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。) であり、臨時雇用者数 (パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む。) は、最近1年間の平均人員を () 外数で記載
事業内容	グループ会社の経営管理 ビーインググループ 物流事業 物流センター運営、コンサルティング業務 その他 旅客事業等

グループ企業

	名称	事業内容	資本金	議決権の所有割合
①	(株)アクティー	物流事業	80百万円	100.0%
②	(株)福井アクティー		30百万円	100.0%
③	(株)東京アクティー		80百万円	100.0%
④	(株)コラビス		80百万円	100.0%
⑤	(株)A 2 ロジ		5百万円	51.0%
⑥	(株)横浜 L S P		10百万円	100.0%
⑦	(株)オリエンタル	旅客業	10百万円	100.0%
⑧	(株)G a p p a	システム開発業	5百万円	100.0%
⑨	(株)ベプロ	保険代理業	3百万円	100.0%
⑩	(株)田川自動車	自動車整備業	6百万円	100.0%
⑪	北陸物流効率化事業協同組合	燃料販売業	0百万円	35.71% (28.57%) ※1 ※2

※1 議決権の所有割合の（）内は、間接所有割合で内数

※2 議決権の所有割合は100分の50以下であるが、実質的に支配しているため子会社としたもの

1 6機能すべてを自社で担うリアル・ロジスティクス・カンパニー

輸送、保管、包装、荷役、流通加工、更に**情報システムを自社開発**一元化する「**3PL事業**」が主軸。さらに3PL事業をプロデュースしサプライチェーン全体を管理する「**4PL事業**」を、グループ連携を図り同業他社へ展開

2 小売・卸売事業者向け3PL事業に注力

取り扱う商品は**生活物資に特化**。3温度帯(常温・冷蔵・冷凍)の食品、医薬品、化粧品、日用品の**小口物流に強み**を持ち、卸売企業及びコンビニエンスストア、ドラッグストア、スーパーマーケットの物流センター運営を受託

3 「運ばない物流[®]」「見える物流」でロジスティクスの合理化・全体最適化を実現

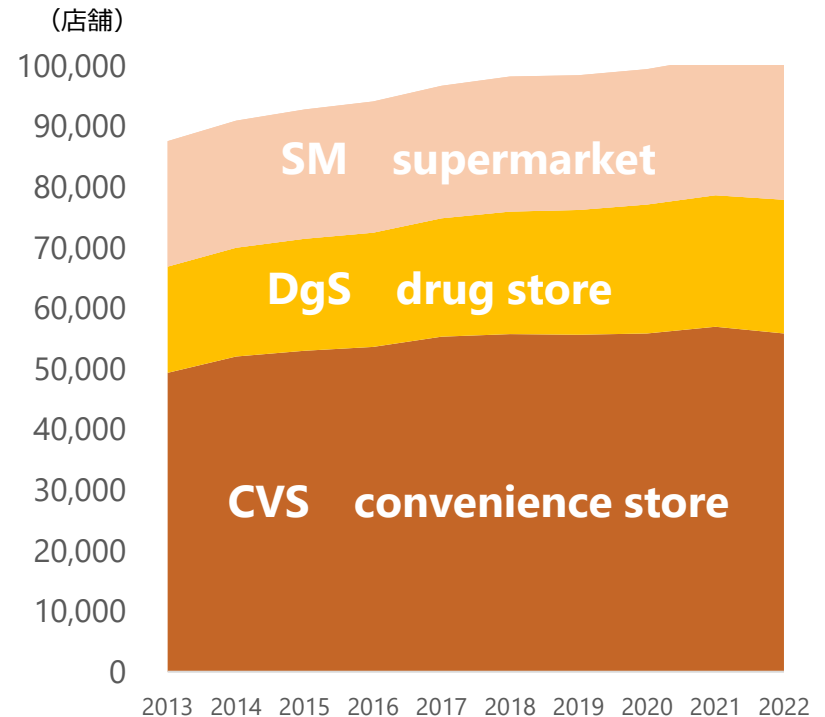
メーカー、卸売、小売間で実施する拠点間配送、在庫管理、検品などを拠点物流センターに集約し、自社開発の管理システム「**Jobs**」を駆使し収集した情報を顧客と共有し、構内・配送業務の徹底した合理化により全体最適化を実現

特長 1 生活物資に特化

生活物資は需要と供給が安定



CVS・DgS・SM全国店舗数の推移



出所 |
日本フランチャイズチェーン協会『コンビニエンスストア統計調査月報』
日本チェーンドラッグストア協会『日本のドラッグストア実態調査』
一般社団法人全国スーパーマーケット協会『スーパーマーケット店舗数』
日本チェーンストア協会『チェーンストア販売統計』より作成

“日々消費する” 生活物資の物流を担うため、
取扱物量および収益が安定

特長 4 無いものは自分たちでつくる「現場力」

・ 現場に合ったデバイスの自社開発・特注により、工数の削減、作業の省人化、安全性の向上を追求

ピッキング用台車

- 台車を外し、積み替えなしでそのまま店舗へ納品



カゴ車用リフトアタッチメント

- 積み替えを省略し、作業工程を合理化
ピッキングした荷姿のまま出荷できる

作業工程の
合理化



店舗カルテ

- 事前に配送先となる全ての店舗を視察、「店舗カルテ」を制作



オリコン洗浄機

- オリコンをカゴ車に積んだ状態で洗浄
→ 限られたスペースでも設置可能



省人化・
省スペース化

お化けリフト

- カゴ車を最大8台
(人の4倍) 搬送できる

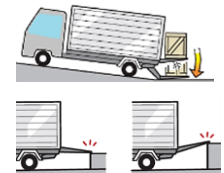


配送トラック

配送の高品質化・
安全性の向上

荷台3枚扉の中央の扉を大きく改良

垂直ゲート (3点スイッチ)

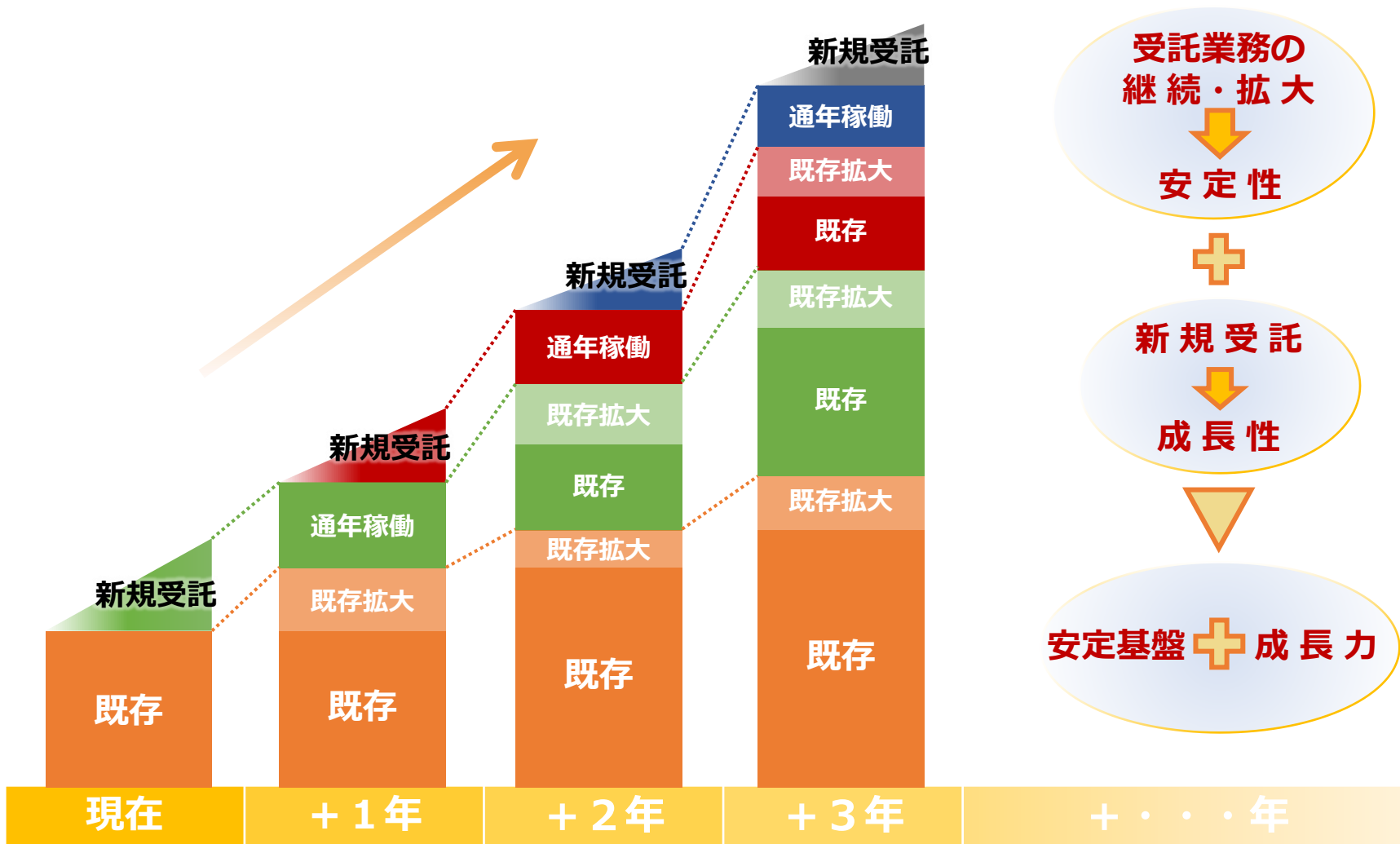


あらゆる物流業務の合理化を自ら考え、実現する「現場力」

成長戦略2 シェアアップによる収益の増加モデル

高い契約継続率による長期間のお取引

安定した収益構造



ロジスティクスの創造的革新に向け

「量」の拡大と「質」の変革で挑む

「小売りビジネスの物流プラットフォーム」
目指す

「データネットワークセンター」
構築

- モノに関する様々なデータを収集・管理・分析し、サプライチェーンに携わる事業者同士を繋げ、クラウド上で管理

- 3PL事業をプロデュースしてサプライチェーン全体を管理する「4PL」事業及び、「DXプラットフォーム」を同業他社へ提供

サプライチェーンの
全体デザイン力拡充する

技術・システム
開発

- 拠点間物流を合理化

3PLビジネスの
スピーディーな拡大

顧客
拡大

エリア
拡大

M&A

「質」
の
変
革

「量」
の
拡
大

研究開発

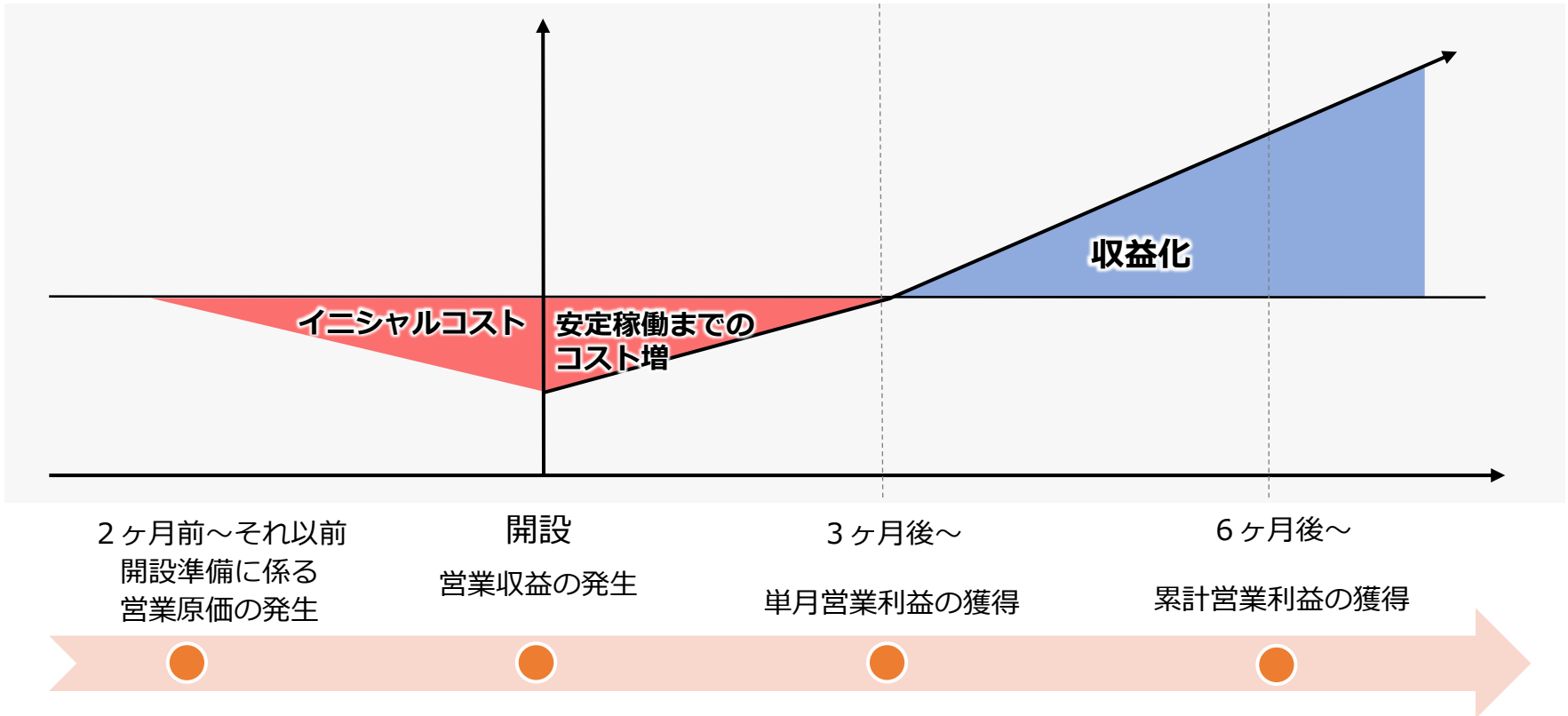
AIやIoTを使った省力化設備や高生産性・高品質の業務フロー
DtoC、オムニチャネルに対応する物流ビジネス

現在

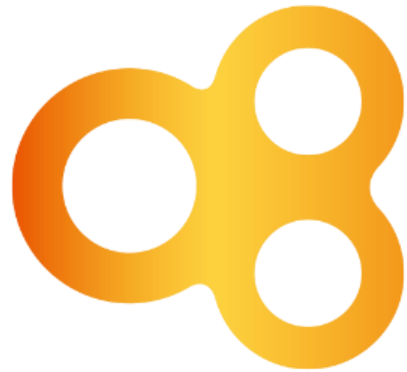
将来

新規拠点開設イメージ（一例）

開設準備～拠点の収益化まで



開設費用（営業原価）	業務開始	単月での収支状況正常化	インシヤルコストの回収
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物流倉庫の賃貸 ・ 物流機器の購入（オリコン、カゴ車等） ・ 輸送機器の購入（トラック等） ・ システムの導入費用 ・ 事前雇用（トレーニング費用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点特有の作業内容の微調整 ・ 顧客要求事項の変更対応 ・ この時点では、生産性よりも確実性を優先 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確実性に加え、生産性も向上し、利益体質に転換 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益化によりインシヤルコストを徐々に回収 ・ 累計でも利益化



REAL LOGISTICS

Being Group